Operation Guide 3012

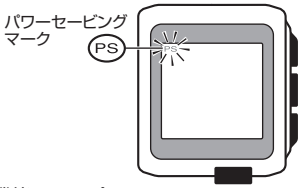
CASIO

パワーセービング機能について

パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。
本機は工場出荷時に「パワーセービング機能」をONに設定してあります。
※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

- 表示スリープ
  午後10時～午前6時の間、暗いところで本機を約1時間放置します。
  ➡液晶表示が消え、パワーセービングマークが点滅します。
  アラーム・時報の報音は行ないます。
  ※ タイマーモード、ストップウオッチモードのときは、スリープ状態になりません。



- 機能スリープ
  表示スリープのまま暗いところで6～7日間経過します。
  ➡パワーセービングマークが点滅から点灯にかわります。
  アラーム・時報の報音は行ないません。
  電波の自動受信は行ないません。
  ※ 時計機能は正常に作動しています。

●スリープ状態を解除するには

本機を明るいところに置くか、いずれかのボタンを押します。
※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大2秒かかる場合があります。

●パワーセービング機能のON／OFF

パワーセービング機能を働かせなくするには「セットのしかた」をご覧になり、パワーセービング機能をOFFにしてください。

> 机の中などに長期間しまっておくときは、パワーセービング機能をONにしておけば、節電効果があります。

液晶表示について

Aタイプの液晶表示で説明しております。
Bタイプ（反転液晶）をお使いの方は、Aタイプで黒く点灯するところが白くなると置き換えてご覧ください。

<Aタイプ>　<Bタイプ>



操作音について

モード切替時などに鳴る操作音のON／OFFを切り替えることができます。

■操作音のON／OFF設定

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも

Ⓑボタンを約3秒間押します

➡確認音が鳴り、操作音のON／OFFが切り替わります。
※操作音をOFFにしているときは、MUTEマークが点灯します。
※操作音がOFFでも、アラーム音、時報音、タイマーのタイムアップ音は鳴ります。

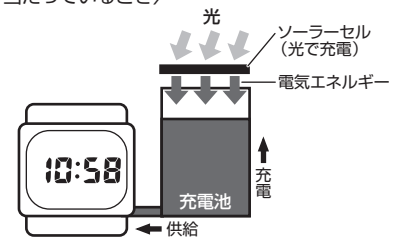


十分に光を当ててご使用ください

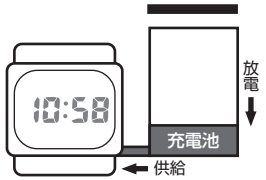
本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。
安定してお使いいただくためには、本機のソーラーセルに光が当たるようにしてお使いください。

●光が当たっているときと当たらないとき

〈光が当たっているとき〉



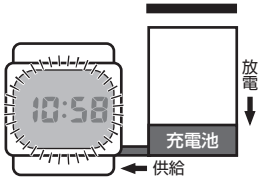
〈光が当たっていないとき〉



時計は光が当たらないときでも常に動いていますので、このままでは充電池の容量が減って機能が使えなくなります。

●ライト（表示用照明）をたくさん使うと

ライトを多用すると充電池の容量は早く減ります。



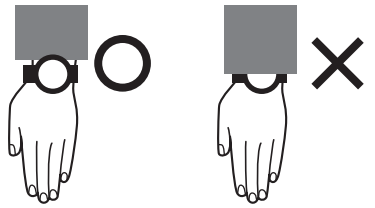
●時計に光が当たるようにしましょう

- 充電池の容量が減ってくると機能に制限がかかります。機能を正しくお使いいただくために、光を当てて充電を心掛けてください。
- 腕から外したときは表示面（ソーラーセル）を明るい方に向けて置くなどして、充電を心掛けてください。



蛍光灯下や窓際などの光が当たる所に置いてください。

- 腕に付けているときはなるべく袖が表示面（ソーラーセル）にかからないように使用してください。

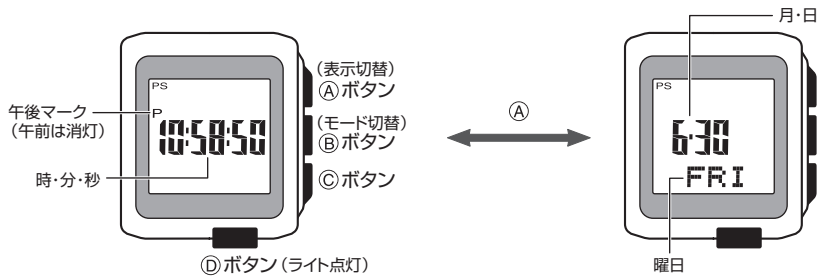


一部でも袖に隠れていると、充電効率が著しく低下します。

操作のしくみと表示の見方

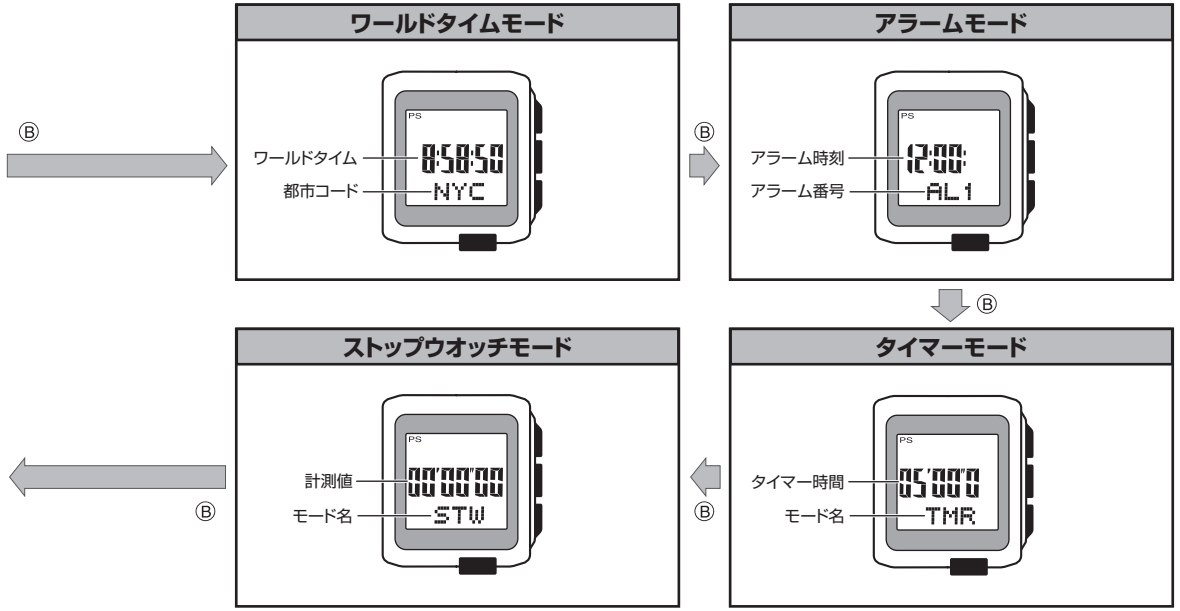
Ⓑ ボタンを押すごとに、以下の順でモードが切り替わります。
※アラームモードのまま２～３分間すると、自動的に時刻モードに戻ります。

時刻モード



★表示切替について
Ⓐ ボタンを押すごとに「時間表示（時・分・秒）」と「日付表示（月・日・曜日）」とが切り替わります。
（日付表示のまま2～3分すると、自動的に時間表示に戻ります。）
※ 時間を常に表示し、Ⓐボタンを押すごとに「月·日」と「曜日」が切り替わる設定にすることもできます。
（日付表示設定のしかたについては「セットのしかた」参照）
※ 工場出荷時は、上記の表示例のように日付を表示させない設定になっています。

★曜日の見方
SUN：日　MON：月　TUE：火　WED：水　THU：木　FRI：金　SAT：土



電源について

本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光が当たるようにしてお使いください。

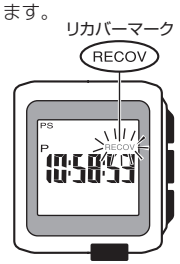
二次電池が消耗して時計機能が停止すると、メモリーされているデータや設定は消去されます。

●リカバーマークが点滅している場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーマークが点滅して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- EL バックライトの点灯
- アラーム・時報などの報音
- タイマーのタイムアップ報音
- 電波受信

この場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。



●充電必要サイン

二次電池が消耗してくると、一部の機能に制限がかかり、時刻モードのときに“LOW”が点滅します。
さらに電池の消耗が進むと、制限される機能が増え、“CHG”が点滅します。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。
また、頻繁にリカバーマークが点滅する場合も電池容量が少なくなっていますので光を当てて充電してください。

表示の状態	制限される主な機能
＜時計モードのとき＞ LOW	EL点灯不可、アラーム・時報などの報音不可、タイマーのタイムアップ報音不可、電波受信不可
CHG	液晶表示不可、EL点灯不可、アラーム・時報などの報音不可、タイマーのタイムアップ報音不可、電波受信不可

※二次電池が完全に消耗すると、すべての表示が消灯し、時計機能も停止しますが、再度充電を行なうことで使用できるようになります。
※二次電池が完全に消耗した状態から充電したときは、充電中に表示が点滅するようになりますが、この状態では機能が使用できません。表示が点滅から点灯に変わるまで、十分に光を当ててからご使用ください。

●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。
- 炎天下に駐車中の車のダッシュボード
- 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
- 直射日光が長く当たって、高温になる所

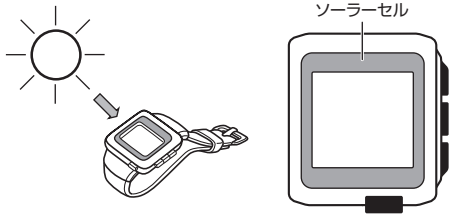
なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることがありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

⚠ 充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますので、ご注意ください。

例）時計の置き方



※イラストは樹脂バンドの場合です。

●充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作*に加え、下記の使用例で使用した場合に約8ヶ月動き続けます。

使用例
- ライト：1.5 秒間／日
- アラーム：10秒／日
- 電波受信：10 分／日
- 表示点灯：18 時間／日

なお、こまめに充電を行なえば、安定してご使用いただけます。

* 基本動作とは、時計内部の時刻演算処理のことです。

〈1日動くのに必要な充電時間〉
※左記の条件で使用した場合

環境（照度）	充電時間
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約8分
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約30分
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約48分
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約8時間

●各段階に回復するための充電時間

環境（照度）	充電時間 充電サイン消灯 ➡ フル充電
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約2時間 ／ 約48時間
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約6時間 ／ 約179時間
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約10時間 ／ 約290時間
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約104時間 ／ ― ― ―

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

ライト点灯について

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも、Ⓓボタンを押すと、ライトが点灯します。
➡暗いところでも、表示を見ることができます。



※点灯時間は約1.5秒間と約2.5秒間のいずれかを選ぶことができます。

ご注意
- ●直射日光下ではライト点灯が見えにくくなります。
- ●ライト点灯中にアラームが鳴り出すと点灯を中断します。
- ●手動受信中はライトは点灯しません。
- ●ライト点灯中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これはEL パネルが点灯する際の振動音であり、異常ではありません。

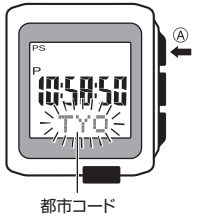
■ライト点灯時間の切り替え

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐボタンを約2秒間押します

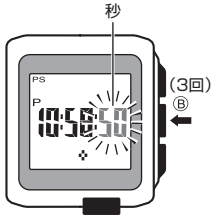
➡都市コードが点滅します。



2. 「秒」を点滅させる

Ⓑボタンを3回押します

➡「秒」が点滅します。

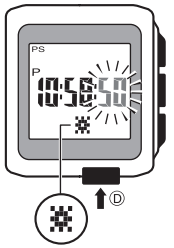


3. 点灯時間を選ぶ

Ⓓボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとに約1.5秒間と約2.5秒間が切り替わります。

※ ⁘ マーク＝約1.5秒間
▩ マーク＝約2.5秒間



4. セットを終わる

Ⓐボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

電波時計について

■電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

■標準電波

- ●日本の標準電波（JJY）は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所（60kHz）」から送信されています。
- ●アメリカの標準電波（WWVB）はNational Institute of Standards and Technology（NIST）が運用しており、コロラド州のFort Collinsから送信されています。

正確な時刻情報をのせた標準電波は独立行政法人情報通信研究機構(NICT)日本標準時グループが運用しております。
この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。
詳しい情報は独立行政法人情報通信研究機構(NICT)日本標準時グループのホームページをご覧ください。

http://jjy.nict.go.jp

※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

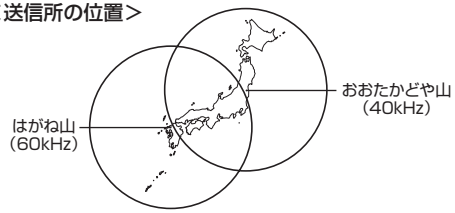
■電波の受信範囲の目安

本機は、ホームタイム都市を下記のように設定すると日本の標準電波（JJY）またはアメリカの標準電波（WWVB）を受信することができます（ホームタイム都市の設定により受信する電波は異なります）。

* ホームタイム都市の設定については「セットのしかた」参照。都市コードについては「都市コード一覧」参照。

ホームタイム都市	受信電波
TYO、SEL	「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」または「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波を受信します。
YVR、LAX、YEA、DEN、MEX、YWG、CHI、MIA、YTO、NYC、YHZ	コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。

＜送信所の位置＞



※送信所から約500kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

＜送信所の位置＞



※送信所から約1,000kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

※地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼･夜）などによって受信できないことがあります。
※電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。

■ 使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。


ビルの中およびその周辺
（ビルの谷間など）


高圧線、架線の近く


乗り物の中
（自動車、電車、飛行機など）


家庭電化製品、ＯＡ機器のそば
（テレビ、スピーカー、ＦＡＸ、パソコン、携帯電話など）


電波障害の起きるところ
（工事現場、空港のそばなど）


山の裏側…など

受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■ 受信方法について

受信方法には、以下の２種類があります。

1 自動受信 １日最大６回（午前12･1･2･3･4･5時に自動受信します）

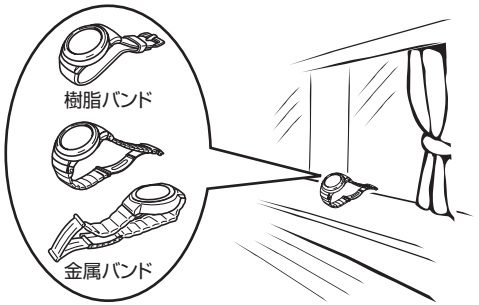
2 手動受信（ボタンを押して手動受信します）

※１日１回受信が成功すれば、その日の自動受信は行ないません。

※工場出荷時には、自動受信を行なうようにセットされていますので、電波を受けるのに適した環境であれば、自動的に受信を行ない、正確な時刻を保ちます。

●受信しやすくするために

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部（12時位置のアンテナ）を外に向けて窓際に置いてください。



●時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。

●受信中、時計を動かさないようにしてください。

●受信時間は？

受信時間はおよそ２～５分です。

※ただし、周波数を変えて再受信するため、最大12分かかる場合があります。

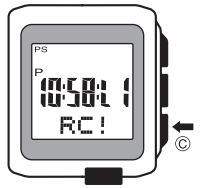
* 自動受信ON／OFFの設定については「自動受信ON／OFFの設定」参照。

●手動受信

時刻モードのとき

Ⓒボタンを約2秒間押し続けます

➡“RC !”が表示され、受信を開始します。受信中は受信状態のレベル表示が変化します。



★受信を中止するときは

Ⓒ ボタンを押します

※手動受信中は Ⓒ ボタン以外の操作はできません。

★受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正後、修正日時を表示します。

※修正日時表示後は、Ⓒ ボタンを押すか、２～３分間放置すると時刻モードの表示に戻ります。

★受信が失敗すると（ERR 表示）

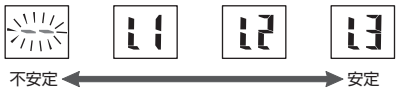
時刻修正は行なわれず、“ERR”を表示します。

※“ERR”表示後は、Ⓒ ボタンを押すか、２～３分間放置すると時刻モードの表示に戻ります。

●受信状態のレベル表示

受信中は受信状態によってレベル表示が変化します。
安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。





※受信しやすい場所でも、安定するまで約10秒ほどかかります。

●受信状態のレベル表示は、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。

●天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

●受信日時の確認

時刻モードのとき

Ⓒ ボタンを押します

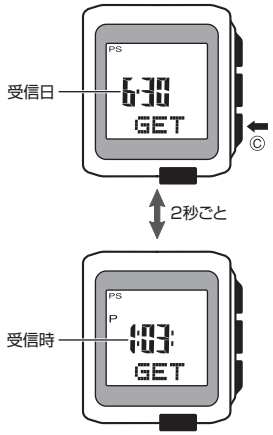
➡受信により最後に修正した月日と時分を表示します。

※受信日と受信時は2秒ごとに切り替わって表示されます。

※一度も受信に成功しなかったときは、“－ － －”を表示します。

※時刻モードに戻すには、もう一度 Ⓒ ボタンを押します。

※何も操作をしないと、2～3分後時刻モードに戻ります。



■ 自動受信 ON／OFF の設定

自動受信をOFFにすると、電波の自動受信をさせなくすることができます。

※ホームタイム都市を電波の受信可能な地域に設定していると、自動受信ON／OFFの設定を行なうことができます。

* 電波を受信できるホームタイム都市については、「電波の受信範囲の目安」参照。

1. 受信日時を表示させる

時刻モードのとき

Ⓒ ボタンを押します

➡受信日時を表示します。

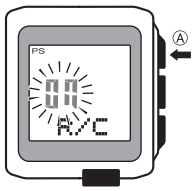
※ 何も操作をしないと、2～3 分後時刻モードに戻ります。



2. セット状態にする

Ⓐボタンを約2秒間押します

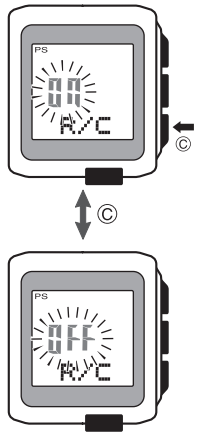
➡ON または OFF が点滅します。



3. セットする

Ⓒ ボタンを押します

➡ON と OFF が切り替わります。



4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、受信日時表示に戻ります。

※ 時刻モードに戻すには、Ⓒ ボタンを押します。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。



★ホームタイム都市が TYO、SEL の場合

● ON 自動受信はONになり、「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」と「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます（自動選局）。 ※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。
● OFF 自動受信は OFF になります。

★ホームタイム都市がYVR、LAX、YEA、DEN、MEX、YWG、CHI、MIA、YTO、NYC、YHZの場合

● ON 自動受信はONになり、コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。
● OFF 自動受信は OFF になります。

■受信に関するご注意

- ●自動受信は時刻モードとワールドタイムモードでのみ行なわれます。
- ●以下のときは、電波受信を行ないません。
  - ・タイマー計測中のとき。
  - ・バッテリーレベルが充電必要レベル（“LOW”や“CHG”点滅）のとき。
  - ・リカバーマーク（RECOV）が点灯しているとき。
- ●自動受信中にボタン操作を行なうと、受信を中断します。
- ●受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。
  ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによってうまく受信できないことがあります。
- ●電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。
- ●本機は日本およびアメリカで送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。
- ●電波受信を行なわないときは、月差±15秒の精度範囲で動きます。
- ●極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。
- ●受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。
- ●本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

■こんなときには

1. 電波が受信できないのですが？

- ●電波の送信が中断していませんか。
  電波時計が利用している標準電波（JJY）は、独立行政法人情報通信研究機構（NICT）により運営されておりますが、保守作業や雷対策等で一時的に送信が中断されることがあります。
- ●電波が受信できない地域にいませんか。
  電波受信ができる地域は、「電波の受信範囲の目安」をご覧ください。
- ●電波受信環境が悪い場所にいませんか。
  電波受信できる地域であっても電波が遮断されたり、発生するノイズにより受信しにくくなります。受信はこのような場所を避けて行なってください（「使用場所について」参照）。
- ●ホームタイム都市が間違って設定されていませんか。
  ホームタイム都市の設定が「電波の受信範囲の目安」に記載されている都市以外の場合は、電波受信を行ないません。「セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。
- ●自動受信設定が OFF になっていませんか。
  「自動受信 ON／OFF の設定」をご覧になり、自動受信設定を ON に設定してください。
- ●自動受信を行なう時間帯（午前12・1・2・3・4・5時）に、時刻モードまたはワールドタイムモード以外になっていませんでしたか。
  自動受信は時刻モードまたはワールドタイムモードでしか行なわれませんので、自動受信時間帯は他のモードに切り替えないでください。

2. 電波を受信したのに、時報と時計の表示が若干ずれるのですが？

- ●電波時計は標準電波を受信して時刻修正を行ないますが、時計内部の演算処理等により若干（1秒未満）のずれが発生します。

3. 電波を受信したのに、時刻がちょうど1時間進んでいるのですが？

- ●サマータイムの設定がONになっていませんか。「セットのしかた」をご覧になり、サマータイムの設定をOFFまたはAUTOにしてください。

4. 電波を受信したのに、時刻がくるっているのですが？

- ●ホームタイム都市の設定が東京（TYO）ではなく、外国都市に設定されていませんか。「セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

5. 自動受信 ON／OFF の設定ができないのですが？

- ●ホームタイム都市の設定が「電波の受信範囲の目安」に記載されている都市以外の場合は、自動受信 ON／OFF の設定を行なうことができません。「セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

6. 自動受信は何時頃行なわれるのですか？

- ●自動受信は電波状況の良い夜間に行なわれます。夜間にお休みのときは、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置（受信アンテナ部）を外に向けて置いてください。

7. 手動受信のしかたは？

- ●時刻モードのときに Ⓒ ボタン（右下）を約2秒間押し続けます。“RC！”が表示され手動受信が開始されますので、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置（受信アンテナ部）を外に向けて置いてください。

8. 受信日時の確認のしかたは？

- ●時刻モードのときに Ⓒ ボタン（右下）を1回押します。電波受信が成功して、時刻修正された日時が表示されます。時刻モードに戻すには、もう一度 Ⓒ ボタンを1回押します。

★電波受信ができないときや受信しても時刻が合わないときなどは、設定を確認してください。
※本機は工場出荷時および電池交換後には、以下の内容でセットされています。

自動受信	0N	自動受信する
ホームタイム都市	TYO	東京
サマータイム	AT	電波受信による自動切替

ワールドタイムの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⒷボタンを押し、ワールドタイムモードにします。

ワールドタイムモードでは、世界48都市（29タイムゾーン）の時刻を簡単に知ることができます。

※ワールドタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見た都市の時刻を表示します。

■ご注意■

ワールドタイムが合っていないときは、時刻モードの時刻およびホームタイム都市設定を確認し、違っているときは正しくセットしてください。

* セットについては「セットのしかた」参照。

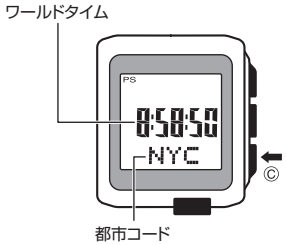
■都市のサーチ

ワールドタイムモードのとき

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに都市コードが切り替わります。

※Ⓒ ボタンを押し続けると早送りします。



■サマータイム（DST）について

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

■サマータイムのON／OFF設定

準備：ワールドタイムモードのとき、Ⓒ ボタンを押して、設定したい都市を選びます。

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

➡Ⓐ ボタンを約２秒間押すごとにサマータイムのON／OFFが切り替わります。

※サマータイムがONのときは、DSTマークが点灯して、通常の時刻より１時間進みます。

※各都市ごとにサマータイムを設定することができます。

※ホームタイムで設定している都市をサマータイムONにしたときは、ホームタイム（基本時刻）もサマータイムONになります。



■都市コード一覧

コード	時差	都市名	コード	時差	都市名
PPG	−11	パゴパゴ	ROM	+1	ローマ
HNL	−10	ホノルル	BER	+1	ベルリン
ANC	−9	アンカレジ	STO	+1	ストックホルム
YVR	−8	バンクーバー	ATH	+2	アテネ
LAX	−8	ロサンゼルス	CAI	+2	カイロ
YEA	−7	エドモントン	JRS	+2	エルサレム
DEN	−7	デンバー	MOW	+3	モスクワ
MEX	−6	メキシコシティ	JED	+3	ジェッダ
YWG	−6	ウィニペグ	THR	+3.5	テヘラン
CHI	−6	シカゴ	DXB	+4	ドバイ
MIA	−5	マイアミ	KBL	+4.5	カブール
YTO	−5	トロント	KHI	+5	カラチ
NYC	−5	ニューヨーク	DEL	+5.5	デリー
CCS	−4	カラカス	DAC	+6	ダッカ
YHZ	−4	ハリファックス	RGN	+6.5	ヤンゴン
YYT	−3.5	セントジョンズ	BKK	+7	バンコク
RIO	−3	リオデジャネイロ	HKG	+8	香港
RAI	−1	プライア	SEL	+9	ソウル
LIS	+0	リスボン	TYO	+9	東京
LON	+0	ロンドン	ADL	+9.5	アデレード
BCN	+1	バルセロナ	GUM	+10	グアム
MAD	+1	マドリード	SYD	+10	シドニー
PAR	+1	パリ	NOU	+11	ヌーメア
MIL	+1	ミラノ	WLG	+12	ウェリントン

※この表は2005年6月現在作成のものです。

※この表の時差は協定世界時(UTC)を基準としたものです。

タイマーの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⒷボタンを押し、タイマーモードにします。

タイマーは1分単位で60分までセットできます。セットした時間を経過(タイムアップ)すると、10秒間電子音が鳴ります。

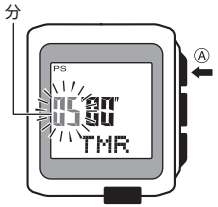
■タイマー時間のセット

1. セット状態にする

タイマーモード（計測リセット状態）のとき

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

➡「分」が点滅します。



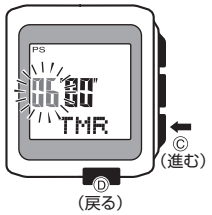
2. 点滅箇所のセット

ⒸまたはⒹボタンを押します

➡Ⓒボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓓボタンを押すごとに戻ります。

※Ⓒ・Ⓓボタンとも、押し続けると早送りします。

※１分単位で60分までセットできます。

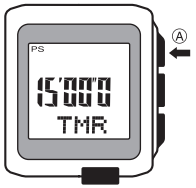


3. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

※点滅表示のまま2〜3分間すると、自動的に点滅が止まります。



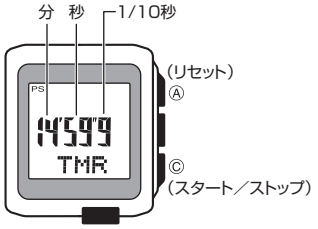
■タイマーの使い方(減算計測のしかた)

タイマーモードのとき

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒボタンを押すごとに計測がスタート／ストップします。

※計測は1/10秒単位で行ないます。



★計測ストップ後Ⓐボタンを押すと、計測前の表示に戻ります（リセット）。

★ロスタイムがあるときは、Ⓒボタンでストップ後、もう一度Ⓒボタンを押すと表示タイムに引き続き計測を始めます。

■タイムアップになると

セットした時間を経過すると、10秒間電子音が鳴り、タイムアップを知らせます。

■鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

アラーム・時報の使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい Ⓑ ボタンを押し、アラームモードにします。

■ アラームについて

●通常アラーム（AL1 ～ AL4）

設定した時刻になると 10 秒間の電子音が鳴ります。

●スヌーズアラーム（SNZ）

設定した時刻になると 10 秒間の電子音が鳴り、5 分おきに合計 7 回報音を繰り返します。
なお、ボタンを押して音を止めても再び鳴り出します。

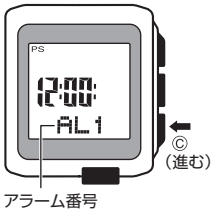
■ アラーム時刻のセット

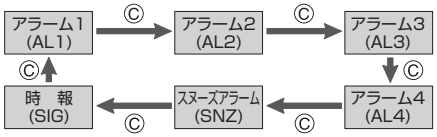
1. アラームを選ぶ

アラームモードのとき

Ⓒ ボタンを押します

➡ Ⓒ ボタンを押すごとに表示が以下の順で切り替わります。セットしたいアラームを選びます。



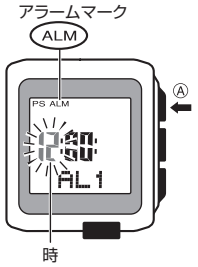


2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約2秒間押します

➡「時」が点滅します。

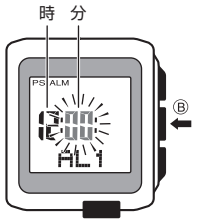
※ アラームマークが点灯して、自動的にアラームONになります。なお、スヌーズアラームのときはスヌーズマークも点灯します。



3. セット箇所を選ぶ

Ⓑ ボタンを押します

➡ Ⓑ ボタンを押すごとに点滅箇所が「時」と「分」で移動します。セットしたい箇所を点滅させます。

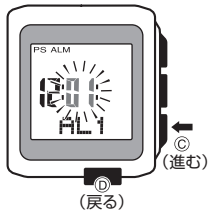


4. 点滅箇所のセット

Ⓒ または Ⓓ ボタンを押します

➡ Ⓒ ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、Ⓓ ボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓒ・Ⓓ ボタンとも、押し続けると早送りします。



手順3.～4.の操作を繰り返して、アラーム時刻をセットします。

5. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡ 点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

■ アラームの ON／OFF 設定

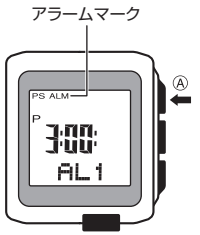
準備：アラームモードのとき、Ⓒ ボタンを押して、設定したいアラームを選びます。

Ⓐ ボタンを押します

➡ Ⓐ ボタンを押すごとに、アラームの ON／OFF が切り替わります。

※アラームマークが点灯しているときが ON となり、アラームが鳴ります。なお、スヌーズアラームのときはスヌーズマークも点灯します。

<アラーム1表示>



<スヌーズアラーム表示>



■ 鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと、音が止まります。

※スヌーズアラームのときは、約 5 分後に再び鳴り出します（スヌーズアラーム機能中はスヌーズマークが点滅します）。

※スヌーズアラーム機能中のときに以下の操作を行ないますと、スヌーズアラーム機能が中断されます。

- ●スヌーズアラームを OFF に切り替えたとき。
- ●スヌーズアラームをセット状態にしたとき。
- ●時刻モードでセット状態にしたとき。

■ モニターアラーム

アラームモードで Ⓒ ボタンを押し続けると、押している間、電子音が鳴ります。

■ 時報について

毎正時（00 分のとき）に“ピッピッ”と電子音を鳴らすことができます。

■ 時報の ON／OFF 設定

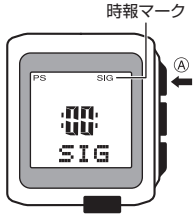
準備：アラームモードのとき、Ⓒ ボタンを押して、時報表示を選びます。

Ⓐ ボタンを押します

➡ Ⓐ ボタンを押すごとに、時報の ON／OFF が切り替わります。

※時報マークが点灯しているときが ON となり、時報が鳴ります。

<時報表示>



ストップウオッチの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい Ⓑ ボタンを押し、ストップウオッチモードにします。

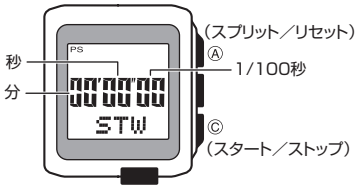
ストップウオッチは 1/100 秒単位で 59 分 59 秒 99（60 分計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に 0 に戻って計測し続けます。

■ 計測のしかた

ストップウオッチモードのとき

Ⓒ ボタンを押します

➡ Ⓒ ボタンを押すごとに、計測がスタート／ストップします。



★計測中に Ⓐ ボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続ける**スプリット計測**となります（“SPL” 表示）。
※スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。

★計測終了後 Ⓐ ボタンを押すと、計測値が 0 に戻ります（リセット）。

●通常計測

Ⓒ スタート → Ⓒ ストップ → Ⓐ リセット

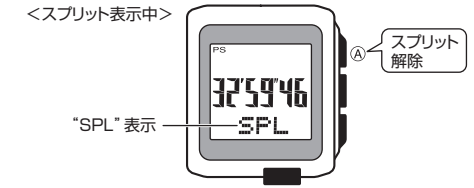
<積算計測>

ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずに Ⓒ ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓒ スタート → Ⓐ スプリット → Ⓐ スプリット解除 → Ⓒ ストップ → Ⓐ リセット

<スプリット表示中>



●1・2 着同時計測

Ⓒ スタート → Ⓐ 1着ゴール（1着タイム表示） → Ⓒ 2着ゴール → Ⓐ 2着タイム表示 → Ⓐ リセット

ホームタイムデータ(時刻・カレンダー)の合わせ方

ホームタイムデータのセットとは、お使いになる地域（都市）や時刻・カレンダー等を合わせることです。
※ホームタイムデータのセットや修正は時刻モードで行ないます。
※パワーセービング機能のON／OFF設定も以下の操作で行ないます。

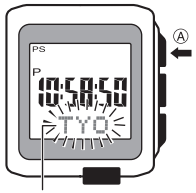
■セットのしかた

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐボタンを約2秒間押します

➡都市コードが点滅します。

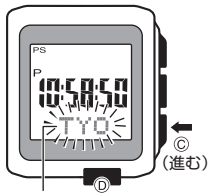


都市コード

2. ホームタイム都市を選ぶ

Ⓒ または Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに都市コードが進み、Ⓓ ボタンを押すごとに戻ります。本機をお使いになる地域（都市）を選びます。
*「都市コード一覧」参照。
※ Ⓒ・Ⓓ ボタンとも、押し続けると早送りします。

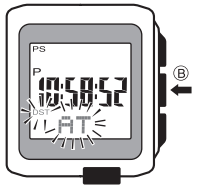


TYO＝東京（戻る）

3. 「サマータイム切替」にする

Ⓑ ボタンを押します

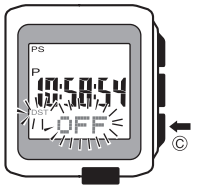
➡サマータイムの切り替えになります。



4. 切り替える

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとにサマータイムの設定が切り替わります。



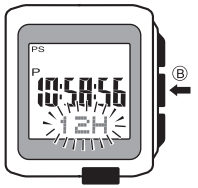
● AT（AUTO） 電波受信により、自動的にサマータイムのON／OFFが切り替わります。
● OFF サマータイムは OFF になります（通常時間）。
● ON サマータイムは ON になります（夏時間）。 ※セット完了後、DSTマークが点灯して、通常の時刻より 1 時間進みます。

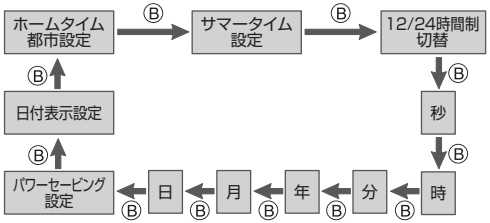
※ホームタイム都市が電波受信の可能な都市（「電波の受信範囲の目安」参照）以外のときは、「OFF」⇔「ON」で表示が切り替わります。

5. セット箇所を選ぶ

Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓑ ボタンを押すごとに以下の順で点滅箇所が移動しますので、設定したい箇所を点滅させます。





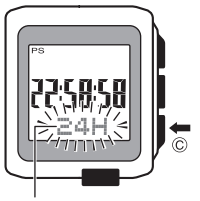
6. 点滅箇所のセット

Ⓒ または Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓒ または Ⓓ ボタンで点滅箇所をセットします。

a.「12/24 時間制切替」のとき

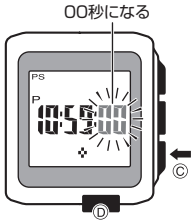
Ⓒボタンを押すごとに12時間制表示“12H”と24時間制表示“24H”が切り替わります。



12/24時間制

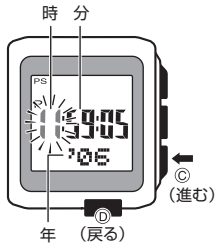
b.「秒」セットのとき

Ⓒ ボタンを押すと「00秒」からスタートします。
※秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がって「00秒」になります。（時報は「時報サービス 117 番」が便利です）
※秒が点滅しているときに Ⓓ ボタンを押すと、ライトの点灯時間を切り替えることができます（「ライト点灯時間の切り替え」参照）。



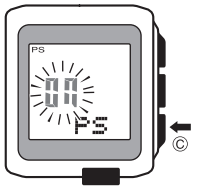
c.「時」「分」「年」「月」「日」セットのとき

Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓓ ボタンを押すごとに戻ります。
※Ⓒ・Ⓓ ボタンとも、押し続けると早送りができます。



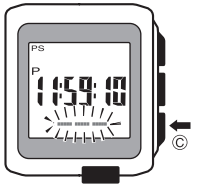
d.「パワーセービング設定」のとき

Ⓒ ボタンを押すごとにパワーセービング機能のON／OFFが切り替わります。
※パワーセービング機能を ON にすると、セット完了後、パワーセービングマークが点灯します。



e.「日付表示設定」のとき

Ⓒ ボタンを押すごとに日付を「表示する」（日時を表示させます）と「表示しない」（“－－－”を表示させます）が切り替わります。



Ⓑボタンを押して点滅箇所を移動させ、ⒸまたはⒹボタンを押してセットする操作を繰り返して、時刻・カレンダーを合わせます。

※「時」のセットのとき午前／午後（P）、または24時間制にご注意ください。
※「年」は2000年～2099年の範囲内でセットできます。正しくセットすると、自動的に曜日が算出されます。
※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

7. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。
※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。